

事業所名

多機能型事業所 来歩

支援プログラム

作成日

令和6年

8月

23日

法人（事業所）理念		1.笑顔とやさしさを大切に育心根を育てます。 2.豊かな創造力と感性の心根を育てます。 3.差別することのない思いやりの心根を育てます。		
支援方針		・生活面、学習面において、一人ひとりのお子さまの能力に応じた療育を実践します。 ・お子さま一人ひとりの身体特性に応じた運動療育を実践します。 ・地域、社会との交流、コミュニケーション能力を高めるために、積極的な屋外活動を実践します。 ・家庭と連携を大切に、一人ひとりの保護者が安心していただけるよう、安全療育を実践します。		
営業時間		(月～金) 13時30分 から 17時 まで (土・祝・長期休暇) 10時 から 16時30分 まで	送迎実施の有無	あり なし
支 援 内 容				
本人支援	健康・生活	・意思表示が困難な児童の障害特性及び発達過程・特性に配慮し、小さなサインから心身の変化に気づけるよう、きめ細かな観察を行う。 ・児童が自立して日常生活をおくるために、遊びや活動を通して生活に必要な基本的スキルの獲得・向上を目指す。 ・施設外での社会体験活動を積極的に取り入れ、個々に適した身体的・精神的・社会的訓練を行い、社会生活での自立を目指す。		
	運動・感覚	・理学療法士を中心に運動遊びや活動を組み立て、楽しみながら姿勢保持や運動能力・基礎的な筋力の習得・維持・強化を図る。 ・感覚過敏に対しては個々の状況把握や理解を通して背景を捉え、様々な物に触れる等の環境設定を行い、日常生活に困難をきたさないような解決策を見出す。 ・ビジョントレーニングや音楽療法等から、体をしっかりと動かし、気持ちやテンションのコントロールへの成長を促す。		
	認知・行動	・個々の認知特性の理解や感覚を十分活用し、自分に入ってくる情報を適切に処理・取得され、認知機能の発達を促す。 ・パズルや迷路等の思考力を養うレク、ソーシャルストーリーを用いた行動学習、視覚的なしなかけを使用したスケジュールの活用により、問題解決能力の向上を図る。 ・認知行動療法的手法を取り入れた指導や注意力・集中力を高めるトレーニングをしながら、認知機能や適切な行動をとることができるよう促す。		
	言語コミュニケーション	・個々の特性や興味関心に応じて、言葉だけではなく、表情や身振り、各種の機器等を活用し、コミュニケーションに必要な基礎能力を身に付ける。 ・具体的な物事や体験と言葉を結びつけることにより、自発的な発声を促し、体系的な言語を身に付けることができるよう支援を行う。 ・様々なコミュニケーションツールを活用し、場や相手の状況に応じて主体的にコミュニケーションを展開できるよう支援する。		
	人間関係社会性	・児童との丁寧な関わりを大切に、環境や人に対する安心感・信頼感を得たり、自分の感情に折り合いをつけたりできるような役割を果たす。 ・大人を介して自分のできることや苦しいこと、自分の行動の特徴を理解するとともに、気持ちや情動の調整ができるよう支援する。 ・集団活動の中で他者との適切な関わり方を習得し、地域社会との交流を図るとともに、社会生活に必要なスキルを身に付け、自己肯定感の向上につながるよう支援する。		
家族支援		・連絡帳や送迎時等で随時情報を共有し、必要に応じて面談や参観する場を設け、家族の不安や困りに寄り添い、解決策を見出せるよう相談援助を行う。	移行支援	・学校や関連の福祉施設、相談支援事業所と情報交換や担当者会議を行い、包括的に支援を行える環境を整え支援していく。
地域支援・地域連携		・公共施設を利用し、地域のお祭りや活動などの地域資源を活用する。 ・学校や他事業所、相談支援事業所、行政機関等の関係機関と連携を図る。	職員の質の向上	・定期的な職員会議に加え、必要に応じて迅速に対応できるような支援体制を構築していく。 ・マニュアルに基づき、定期的な研修の実施。
主な行事等		掲示物制作、外出レク(動物園、お花見、ボウリング等)、買い物学習(フードコート、スーパー等)、夏祭り、プール、おやつ作り、ゲーム、クリスマス会、初詣 など		